

まつもと じゅん
松本純

中区・磯子区・金沢区
**まちかど
政治瓦版**



平成15年9月16日号
発行 かながわ1区支部
編集長 平木 茂

No. **7**

問合せ●横浜市中区野毛町2-65 電話045-241-7800 FAX045-253-0585 ホームページ www.jun.or.jp

「地域力」で日本の再生を図ろう！ 今、あなたの周辺を見直してみませんか



「地域力」という言葉を最近ときどき耳にします。国力に対する概念、あるいは国力を底辺で支えるパワーと言ったらいいのでしょうか。もっとやさしく、私たちの街（行政区画の町よりもっと身近な単位）が持つ力と言う方がわかりやすいでしょう。それに関連するこんな話を、ある団地で聞きました。

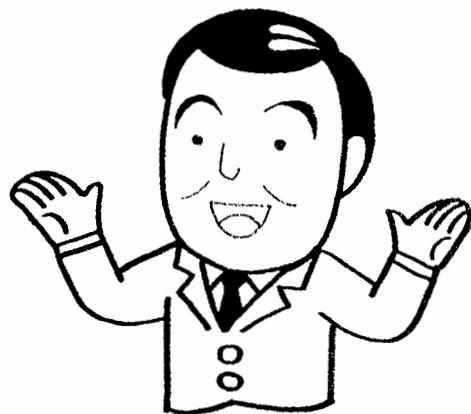
20数年前にできたその分譲団地に当時入居したのは、ほとんどのご主人が40歳前後という若い世帯でした。団地をコミュニティとして運営してゆくためには、管理組

合と自治会という2つの組織が必要です。ところが特に自治会となると市や近隣の自治会などとの関係が出てきますから、会社の第一線で働くご主人たちには大変な負担で、だれもがその役員になるのを嫌いました。

時が移り、団地には定年退職するご主人が次々出てきました。第二の人生を歩みだした彼らは、それまで仕事第一で振り返ることのなかった地域と直面します。体力はまだあります。それに時間の余裕と「何かひとの役に立ちたい」という思いが重なって、自治会活動に積極的に参加する人や、同好の人を募ってクラブ活動を始める人がにわかに増えました。そのせいか、今年の団地の夏祭りはかつてなく盛り上がったそうです。

瓦版でたびたび取り上げている治安の悪化も、「隣は何をする人ぞ」という近隣や地域への無関心が原因のひとつとされています。教育の面でも、昔は年代の違う人たちがお互いに感化しあう「若者宿」など地域の教育力は強かったといえます。ただ、それは現在に復活しようもないでしょうし、かつて地域の代名詞だった隣組には、監視されているような窮屈な面もあったといえます。

今求められているのは、新しい地域像です。前述した団地は、それを築きつつあるのかもしれませんが。住宅街だけでなく、商店街でも変化が出ているでしょう。あなたの地域はいかがですか？お互いに情報を交換しあって、新しい地域を実現していきましょう。



ご意見、ご感想をお寄せください。▶「みんなの声」係 matsumoto@jun.or.jp



ポスターに込めた「松本純6つの顔」⑤

このポスターには、私の顔のほかに6枚の写真が印刷されています。実はそのひとつひとつに、私の思いを込めました。第5回目は、右側の一番上、白衣姿の私です。

白衣——それが私の政治家の原点 「安心」の実現に決意新た

ダテに白衣を着ているのではないのです。このページの下段にプロフィールがありますが、私はもともと薬剤師で父が始めた小さな薬局を横浜の野毛で経営しています。

マツモト、薬局といえば、「マツモトキヨシ」が有名ですが、もちろん関係ありません。ただ、その薬局名となった人は千葉・松戸市長のとき、「なんでもやる課」を創設して全国的に注目された人ですから、物事に挑むその果敢な精神は学びたいと思っています。



さて、薬剤師として人の命、人の健康に深くかかわってきた私の政治家としての永遠のテーマは、医療・福祉・介護・年金です。ひとことで「安心」と言ってもいいと思います。これは横浜市議（3期）、衆議院議員（1期）を通じて変わりありません。

ところが、私の薬剤師としての仕事は、政治的な判断によって医療制度がしばしば変えられ、患者さんの自己負担率が増減します。そして、その議論は結局は、高福祉高負担の「大きな政府」を選ぶか、低福祉低負担の「小さな政府」を選ぶかに行き着きます。

スウェーデンなどの北欧各国は前者であり、自立・自己責任を求めるアメリカは後者。その中間に中福祉中負担の国であるイギリスがあり、現在の日本もこのタイプといえます。

今、日本は大きな財政赤字に苦しんでいます。それが医療の自己負担を高める原因になっているわけですが、私は、互助精神に富む日本は、独自の中福祉中負担型を目指すべきだと考えます。そして、世界一の長寿国を築き上げることができた日本にしかない制度「国民皆保険制度」を堅持していくことが大切だと思います。

私は、前回の衆議院議員時代に介護保険制度を創った責任者としての誇りを持って、さらに「安心」に取り組んでいきたいと決意を新たにしています。

まつもと じゅん プロフィール



昭和25年4月11日、横浜市中区生まれ▶本町小、聖光学院中・高、東京薬科大卒、薬剤師。製薬会社を経て、(有)松本薬局に入社。現在は代表取締役▶本町小PTA会長、横浜JC専務理事、野毛大道芸実行委員長として、街づくりや地域活動に取り組む▶平成2年、横浜市議中区補欠選で初当選、3期務める▶平成8年、衆議院総選挙で神奈川1区当選。専門を生かして医療・福祉・介護・年金などに全力投球▶平成12年の総選挙で次点落選▶現在は自民党衆議院神奈川1区支部長として国政復帰奮闘中。